

CASBEE-建築(新築)2016年版 京丹波町新庁舎		欄に数値またはコメントを記入		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)		
スコアシート		実施設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.4</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>			<b>3.2</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	<b>0.15</b>			<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル		3.0	0.40			
1.2 遮音		3.0	0.40			
1 開口部遮音性能		3.0	0.60			
2 界壁遮音性能		3.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						
1.3 吸音		3.0	0.20			
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	<b>0.35</b>			<b>3.0</b>
2.1 室温制御		3.0	0.50			
1 室温		3.0	0.38			
2 外皮性能		3.0	0.25			
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38			
2.2 湿度制御		3.0	0.20			
2.3 空調方式		3.0	0.30			
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.4</b>	<b>0.25</b>			<b>3.4</b>
3.1 昼光利用		2.2	0.30			
1 昼光率		1.0	0.60			
2 方位別開口						
3 昼光利用設備	頂側窓(ハイサイドライト)の設置。	4.0	0.40			
3.2 グレア対策		3.0	0.30			
1 昼光制御		3.0	1.00			
3.3 照度	全館照明方式の場合で、照度が500lx以上1000lx未満	4.0	0.15			
3.4 照明制御	1作業単位で照明制御可。端末,リモコン等で調整可。自動照明制御可。	5.0	0.25			
<b>4 空気環境</b>		<b>3.6</b>	<b>0.25</b>			<b>3.6</b>
4.1 発生源対策		4.0	0.50			
1 化学汚染物質	建築基準法規制対象外となる建築材料(F☆☆☆☆)をほぼ全面的に採用。	4.0	1.00			
4.2 換気		3.3	0.30			
1 換気量	建築基準法(シックハウス対応含),建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍。	4.0	0.33			
2 自然換気性能		3.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33			
4.3 運用管理		3.0	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50			
2 喫煙の制御		3.0	0.50			
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>			<b>3.7</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.6</b>	<b>0.40</b>			<b>3.6</b>
1.1 機能性・使いやすさ		3.3	0.40			
1 広さ・収納性		3.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33			
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準を満たしている。	4.0	0.33			
1.2 心理性・快適性		4.3	0.30			
1 広さ感・景観	執務室天井高2.89m以上 南面カーテンウォールより屋外眺望が可能。	4.0	0.33			
2 リフレッシュスペース	休憩室71.87㎡/執務室1F+2F884.72㎡×100=8.12%。自動販売機設置。	5.0	0.33			
3 内装計画	町内産木材をふんだんに使用する内装計画。雰囲気のある照明計画。	4.0	0.33			
1.3 維持管理		3.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計	外部木材部分に関しては特に注意を払った計画とした(乾式注入工法採	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>4.0</b>	<b>0.30</b>			<b>4.0</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		4.6	0.50			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	耐震安全性目標 構造体: I類	5.0	0.80			
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.4	0.30			
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	木板張りに乾式注入工法を採用。	4.0	0.20			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	主要な用途上位3種のうち2種類に〇を使用。	4.0	0.20			
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20			
2.4 信頼性		3.4	0.20			
1 空調・換気設備	換気,空調の重要度に応じ系統を区分し負荷容量を低減運転を可能にした。	4.0	0.20			
2 給排水・衛生設備	節水器具の採用。配管系統区分,受水槽に蛇口設置による災害対応。	4.0	0.20			
3 電気設備		3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5 通信・情報設備		3.0	0.20			

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.30			<b>3.6</b>
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30			
1	階高のゆとり	階高=4.1m	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率=0.08	5.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30			
3.3 設備の更新性			3.0	0.40			
1	空調配管の更新性		3.0	0.20			
2	給排水管の更新性		3.0	0.20			
3	電気配線の更新性		3.0	0.10			
4	通信配線の更新性		3.0	0.10			
5	設備機器の更新性		3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				0.30			<b>3.3</b>
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮		建物高さを規制(裏山よりも低く)勾配屋根とし、軒先を低抑え景観に配慮。	5.0	0.40			5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30			2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50			
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50			
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>3.1</b>
<b>LR1 エネルギー</b>				0.40			<b>3.5</b>
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPI = 0.63	5.0	0.20			5.0
2 自然エネルギー利用		ハイサイドライトによる採光	4.0	0.10			4.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.79	3.1	0.50			3.1
4 効率的運用			3.0	0.20			3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00			
4.1	モニタリング		3.0	0.50			
4.2	運用管理体制		3.0	0.50			
集合住宅の評価							
4.1	モニタリング						
4.2	運用管理体制						
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				0.30			<b>2.9</b>
1 水資源保護			3.4	0.20			3.4
1.1	節水	節水コマに加え、省水型機器を採用。	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70			
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60			2.7
2.1	材料使用量の削減		-	-			
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22			
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22			
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	1.0	0.22			
2.5	持続可能な森林から産出された木材	京丹波町産木材、針葉樹の使用比率=50%以上	5.0	0.11			
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.22			
3 汚染物質含有材料の使用回避			2.7	0.20			2.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避			2.6	0.70			
1	消火剤		2.0	0.33			
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33			
3	冷媒		3.0	0.33			
<b>LR3 敷地外環境</b>				0.30			<b>2.9</b>
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率 86%	3.5	0.33			3.5
2 地域環境への配慮			2.5	0.33			2.5
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.0	0.25			
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25			
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25			
3	交通負荷抑制	駐輪駐車スペースを十分に確保、導入路を複数設け渋滞を緩和する計画。	5.0	0.25			
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮			2.7	0.33			2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1	騒音		3.0	1.00			
2	振動		-	-			
3	悪臭		-	-			
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制			3.0	0.40			
1	風害の抑制		3.0	0.70			
2	砂塵の抑制						
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			1.6	0.20			
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		1.0	0.70			
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30			